

工業簿記B		講義	准教授 岩下 尚義	
科目カテゴリー	会計ファイナンスコースの 選択必修科目 教職科目	科目ナンバリング	23010203 25320209	

1. 授業のねらい・概要

簿記は、対象となる業種により商業簿記と工業簿記に分かれる。商業簿記は商品売買業のように仕入れた商品をそのままの形で販売する業種が対象である。一方、工業簿記は製造業のように材料を仕入れ、加工し、製造した完成品を販売する業種が対象である。商業簿記に比べ、主に「原価計算」を学ぶことで簿記の知識を深めるとともに、モノが製造される仕組みを会計の視点から追うことができる。

本授業では、日商簿記2級の出題範囲を学修する。日商簿記2級の出題範囲は、商業簿記と工業簿記があり、本授業と「工業簿記A」を併せて履修することで、工業簿記の範囲を学修することができる。さらに「中級商業簿記」及び「上級商業簿記」を併せて履修することで、日商簿記2級の全範囲を学修することができる。

2. 授業の進め方

講義形式で行う。授業は、インプット（講義）とアウトプット（演習）をバランスよく実施する。インプットは、テキストやその内容をまとめたレジュメなどを用いて説明する。アウトプットは、テキストに収録された問題集なども用いるため、必ずテキストを購入し毎回持参すること。本授業の第14回・第15回では、日商簿記2級工業簿記の過去問題レベルの問題を実際に解き、試験の傾向や対策も説明する。

3. 授業計画

1. ガイダンス ー前期の復習ー	9. 標準原価計算 ②（直接材料費等の差異分析）
2. 総合原価計算 ①（仕掛品の計算）	10. 標準原価計算 ③（製造間接費の差異分析）
3. 総合原価計算 ②（組別総合原価計算等）	11. 直接原価計算 ①（基礎）
4. 総合原価計算 ③（仕損、追加投入）	12. 直接原価計算 ②（損益分岐点、利益率等）
5. 工業簿記における財務諸表	13. 標準原価計算、直接原価計算のまとめ・演習
6. 本社工場会計（仕訳問題）	14. 日商2級工業簿記の解き方 ①（総合問題）
7. 総合原価、工業簿記における財務諸表のまとめ	15. 日商2級工業簿記の解き方 ②（まとめ）
8. 標準原価計算 ①（基礎）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回テキストの該当箇所を事前に読むことが望ましい。また、復習はテキストやレジュメを読むだけでなく、テキストの練習問題を中心に問題を解くことが大切である。なお、これらの準備学修には2時間程度が必要である。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

日商簿記検定2級の工業簿記に関する出題に対し、必要な計算問題や仕訳について毎回簡単なミニテストを実施し解説する。試験実施の際は、解法手順やポイントなどを記載した模範解答を配布する。

6. 授業における学修の到達目標

工業簿記の基本的な概要を理解して、日商簿記検定試験2級に合格するための「基礎」の習得を到達目標とする（前期の工業簿記Aとともに履修すると、日商簿記検定試験2級の工業簿記の全範囲を習得できる）。

7. 成績評価の方法・基準

原則として、授業への取り組み姿勢（50%）および定期試験の結果（50%）によって、評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは、滝澤ななみ著（2026）『2026年度版 スッキリわかる 日商簿記2級 工業簿記』TAC出版を使用する。

なお、本テキストは改訂される可能性があるが、授業では最新版を使用する。

9. 受講上の留意事項

工業簿記は、商業簿記を理解したうえで、商業簿記には無い「原価計算」などを学ぶ講義である。商業簿記の基礎知識があることを前提に行うため、商業簿記（日商簿記3級程度）の知識を有するか、同時に学習することが望ましい。また、前期の工業簿記Aを履修していることを前提に授業を実施する。ただし、基礎知識がない場合でも理解ができるように解説していくため、疑問点や不明点があれば積極的に問いかけること。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、税理士としての実務経験も活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。